

[成果情報名] アイガモ受精卵保存温度および保存期間がふ化率に及ぼす影響

[要 約] 水禽（アイガモ）受精卵のふ化率を高めるには、保存温度が12℃の場合は2週間以内、保存温度が5℃の場合1週間以内に入卵することが必要である。また、保存温度が20℃の場合はふ化がほとんど期待できない。

[キーワード] アイガモ 受精卵 ふ化率 保存温度 保存期間

[担当] 山梨県畜産試験場 養鶏科

[連絡先] 電話 055-273-6441、電子メール matsushita-uds@pref.yamanashi.lg.jp

[区分] 関東東海北陸農業・中小家畜

[分類] 技術・普及

-----  
[背景・ねらい]

本県において、アイガモ水稲同時作を導入する農家が増加していることから、アイガモ雛の円滑な供給体制を確立する必要がある。これに伴い、アイガモ雛を払い下げ時期に合わせて計画的にふ化させるために、受精卵の保存技術の向上が求められている。しかしながら、鶏受精卵の保存技術に関する研究報告は多くあるが、アイガモを含めた水禽については報告事例が少ない。そこで今回はアイガモ受精卵の保存に関して、保存温度と保存期間のコントロールがふ化率に及ぼす影響について調査した。

[成果の内容・特徴]

【ふ卵開始3週目における発育卵率（図-1）】

- ・ 1週間保存では、保存温度による差はほとんどない。
- ・ 保存期間1週間が長くなると、発育卵率が5℃では45% ( $y=-45x+141.33$ )、20℃では39% ( $y=-39x+115.33$ ) 低下し、12℃の11% ( $y=-11x+108$ ) と比較して低下が早い。

【発育卵に対するふ化率（図-2）】

- ・ 1週間保存した場合、保存温度が5℃ ( $y=-29.583x+102.92$ ) および12℃ ( $y=-12.234x+89.146$ ) ではふ化率の差はほとんどないが、保存期間1週間が長くなると、発育卵率が5℃では30%、12℃では12%低下する。
- ・ 1週間保存した場合、保存温度が20℃ ( $y=-17.442x+46.512$ ) ではその後ふ化する受精卵が半分以下である。
- ・ 3週間保存した場合、保存温度が5℃および20℃ではすべてふ化しなかった。

[成果の活用面・留意点]

- ・ 保存温度は12℃で、採卵後2週間以内に入卵する。
- ・ アイガモ雛の払い下げ時期に合わせた、計画的なふ化が期待できる。

[具体的データ]

表-1 試験区

1区：25個×2反復

保存温度	5℃	12℃	20℃
保存期間	1週間	2週間	3週間

※保存温度、保存期間をそれぞれ組み合わせて、計9区分について調査

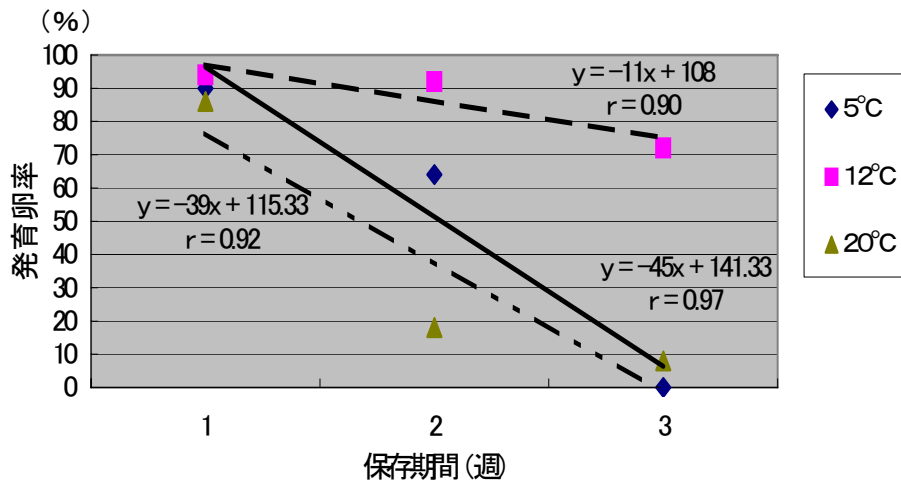


図-1 ふ卵開始3週目における発育卵率

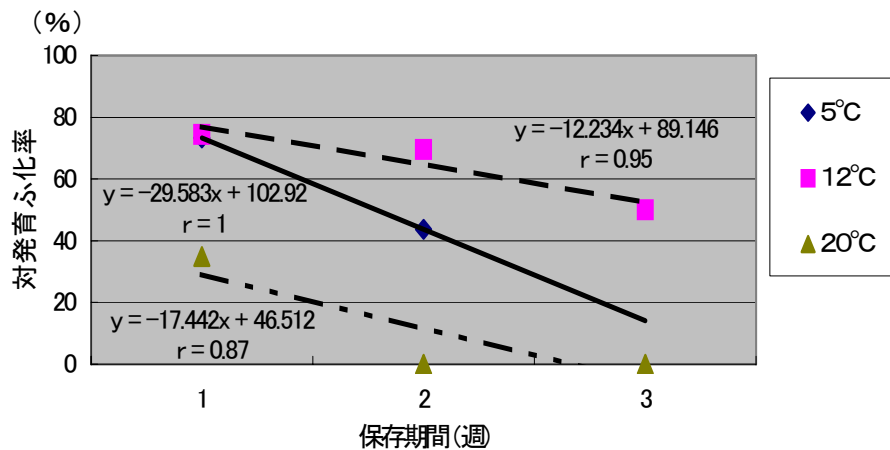


図-2 発育卵に対するふ化率

[その他]

研究課題名：特殊家禽の改良と増殖

予算区分：県単

研究期間：平成8年～

研究担当者：小川 陽介・松下 浩一・西尾 進

発表論文等：畜産試験場研究報告第51号掲載予定